第２分科会１年間の総括

検討テーマ「地域交通と高齢者対策」

Ⅰ「地域交通」について

（１）　私たちは、これまでに経験したことのない人口減、高齢化社会の中で、高齢者の移動手段を確保するため、隣接する燕市の循環バスも参考にしながら、当地域においても循環バスの運行を検討することとした。

（２）　平成２８年５月に市都市整備部交通政策課 殖栗課長補佐より長岡市の地域交通の基本方針、和島地区のアンケートの取り組み状況等について説明と指導を受けた。

　その結果判明したことは、市が主体となって循環バスを運行することはしないこと、住民が主体となって組織を立上げ、バスの運行を行い、市が補助金を出すということであり、燕市方式は無理と考えた。

（３）　７月に地域の実態とニーズを把握するため、市の交通政策に沿った形でアンケート調査を実施することとし、路線バス、ＪＲが運行されていない地域の 65 歳以上の対象者に調査を実施した。

（４）　９月にアンケートの回答を集約した結果は、対象世帯数 718 通、回収数 359 通、回収率 50％であった。

①　地域主体のバス運行の需要について

ア．利用したい　119 通、33.1％　イ．利用しない　174 通、48.5％

で、次のステップに進むには微妙な結果であった。

②　その理由（背景）について

ア．現在は何とか自力（家族送迎含む）で外出している人が多いため、直ちに地域主体バスの運行は望まない。

イ．最寄りの駅、バス停まででではその先が不便等、地域主体バスの内容が明らかでないため、賛成出来ない。

ウ．しかし、今後更に高齢化が進み、運転免許の返納等が見込まれ、先行不安の意見も多くあった。

③　公共交通（路線バス）について、次のような要望意見があった。

ア．寺泊地域から日赤病院経由の運行

イ．長岡駅発最終便を以前の 20:40 にする

ウ．寺泊診療所経由の運行
エ．敦ヶ曽根・万善寺・高内・町軽井経由の運行

（５）　平成２９年２月、分科会を開催し市交通政策課 殖栗課長補佐より参加いただきアンケート調査結果の分析と、今後の取り組みについてのアドバイスを受けた。

①　外出頻度から、毎日、定期バスのような運行は必要ないのではないか。利用時間帯について、出発は午前中に集中している。帰宅も午前中に 40%、次いで 12～14 時に 30%で、終日運行の必要は感じられない。

②　以上の分析から、小国地域で運行している「デマンドタクシー」方式を参考にして、地域を分け、曜日別、全便予約制の運行方法としてはどうか。

③　必ずしも寺泊地域に限定せず、燕市分水等近隣の目的地への運行は、燕市、長岡市地域公共交通協議会の双方の了解が得られれば、可能性がある点は新たな視点に。

（６）　今後の道筋等

①　地域主体バスの運行については、今回結論を得ることは出来なかったが、今後引き続き将来を見据えて「地域生活交通検討委員会」の立上げを、次期地域委員会へ引き継ぎたい。

②　地域に合った運行主体を検討する「地域生活交通検討委員会」は、地元町内会、区長連合会、地域委員会、タクシー会社、オブザーバーとして市（支所）等に依頼する。
　どこがイニシアチブ（主導）をとるか難しい課題と思うが、スタート時はこれまでの経緯から、地域委員会が担うべきと思われる。

③　アンケートによって寄せられた路線バスへの要望は、市交通政策課よりバス会社へ機会があった時に伝えていただくことをお願いした。

Ⅱ「高齢者対策」について

（１）　平成２８年５月「寺泊地域の高齢者に関する実態・課題・取り組みについて」、長岡市地域包括支援センターわしま･てらどまりセンター長を講師に勉強会を開催した。
　中心テーマは、2025 年を目途に「地域包括ケアシステム」を構築し、地域で支え合う体制づくりが重要になってくること。
　当地域での取り組みはこれからになるので、それぞれの地域が中心になって地域の特性に応じて作り上げていくことが必要である。

（２）　今後の方向性について

①　最終目標を「医療」、「介護」、「介護予防」、「生活支援」、「住まい」が一体的、包括的に提供される「地域包括ケアシステム」に向けて、今から地域で出来るところから取り組むこととし、その他医療等の難しい課題については、関係機関等と協力しながら、今後に引き継ぐこととしたい。

②　直ちに取り組める課題

（見守り活動）

・高齢者を世代を越えて「地域で支え合う」機運を醸成するため、地域包括センターが中心になって推進している「シルバーささえ隊」を各自治会等で協力推進する。

（高齢者の生きがいづくり活動）

・高齢者は自ら介護予防や認知症予防等、健康づくりに取り組み、積極的に社会参加し、スポーツや生涯学習等の中から自分に合った生きがいを見い出す支援。

・てらスポ！や今後スタートするコミセンと連携して、生涯スポーツ人口を増やす支援。

・地域（自治会等）は、高齢者が気軽に集まる「お茶の間サロン」、「子どもや若い世代との交流会（遊び・スポーツ）」等の場所設定と活動支援。

③　小地域ネットワーク等を構築して解決する課題

（生活支援・たすけあい活動）

・自治会、民生委員、日赤奉仕団、ボランティア等でチームを編成、一人暮らし家庭や障害者、要介護者世帯世帯への定期訪問や、簡易な生活支援。

④　地域医療体制の改善について

寺泊地域では、医療機関が減少し近隣の医療機関を受診する人は増加している。特に、夜間帯は医師不足となり生活不安の要因にもなっている。

「在宅医療」の推進を図っていくためにも、寺泊診療所の診療体制を外来診療だけでなく、訪問診療を出来るように改善を要望していきたい。

⑤　緊急時の対策

一人暮らしの高齢者宅に「緊急通報装置」の設置を要望していきたい。